

2027 年度学会賞・学会功労賞・奨励賞・ 女性 Analyst 賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2027 年度の学会賞・学会功労賞・奨励賞・女性 Analyst 賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、10 月末日までに所属支部の学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞・女性 Analyst 賞候補者推薦委員会あてに、推薦理由書 [A4 判（縦に使用）用紙に 1,200 字以内] に文献リストと候補者の略歴を添えて、文書及び電子ファイルの双方にて、お申し出ください。

『学 会 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に学会賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして分析化学に関する貴重な研究をなし、その業績を本会論文誌およびその他の論文誌に発表した者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。ただし、学会功労賞受賞者および技術功績賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会功労賞および技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 3 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 本賞を受けた者は、年会において学会賞受賞講演を行う。
- 第 5 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 6 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 7 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 8 条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- ＜以下省略＞

『学 会 功 労 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に学会功労賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして日本分析化学会および分析化学の発展に多大な貢献をなした者で、受賞の年の 1 月 1 日現在、30 年間以上引き続き本会会員であり、満 55 歳以上の者にこれを贈呈する。ただし、学会賞受賞者および技術功績賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会賞および技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 5 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 5 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 6 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 7 条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- ＜以下省略＞

[注記] 学会功労賞は、次のような業績が対象となります。

- (1) 本会の発展に対する功績、(2) 分析化学の教育における功績、(3) 分析化学の国際交流における功績、(4) 本会の本部・支部の役員としての功績、(5) 本会の各種委員会・研究懇談会における功績、(6) 本会の本部・支部事業等における功績、(7) その他分析化学による社会的功績

『奨 励 賞 規 程』

- 第 1 条 本会に奨励賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして受賞選考の時期までになされた分析化学に

お知らせ

関する研究が独創的であり、将来を期待させる研究者で、受賞の年の4月1日現在で満38歳以下の者に、女性もしくは企業に所属する者については受賞の年の4月1日現在で満45歳以下の者に贈呈する。

- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌、および特許等の知的財産を対象とし、いずれも公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 学会賞、学会功労賞、技術功績賞受賞者は、受賞できない。また、同一年度の学会賞、学会功労賞、技術功績賞の受賞候補者となることはできない。女性 Analyst 賞と同一内容で応募することはできない。

第2条 本賞は、毎年5件以内とする。ただし、大学および公的研究機関に所属する者については4件以内とする。1件以上は企業に所属するものに授与することが望ましい。

第3条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において奨励賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第6条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。

第7条 会員は、その所属する支部推薦委員会に10月末日までに候補者を推薦することができる。

第8条 候補者の推薦にあたっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。

<以下省略>

『女性 Analyst 賞 規 程』

第1条 本会に女性 Analyst 賞（以下本賞という）を設け、本会会員、非会員にかかわらず、分析化学に関する優秀な業績をあげた女性研究者、女性技術開発者あるいは女性企業経営者に、これを贈呈する。ただし、学会賞、学会功労賞、技術功績賞受賞者は、受賞できない。また、同一年度の学会賞、学会功労賞及び技術功績賞の受賞候補者となることはできない。奨励賞と同一内容で応募することはできない。

第2条 本賞の贈呈は原則として毎年2件以内とする。

第3条 本賞は賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において女性 Analyst 賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長、研究懇談会委員長並びに本会女性研究者ネットワークに推薦を依頼する。

第6条 推薦者は、1月末日までに推薦書、推薦理由書、履歴書及び説明資料を会長に提出する。

第7条 本賞候補者の選考は、女性 Analyst 賞審査委員会（以下審査委員会という）において行う。

<以下省略>

2027 年度技術功績賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2027 年度の技術功績賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、所属支部長または団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者にお申し出ください。

『技 術 功 績 賞 規 程』

第1条 本会に技術功績賞（以下本賞という）を設け、本会会員にして分析技術の向上、あるいは、分析技術による社会的貢献に関し、業績の著しい者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。本賞は、本会正会員を中心とするグループに贈呈することもできる。ただし、学会賞受賞者および学会功労賞受賞者は受賞できない。また、同一年度の学会賞および学会功労賞の受賞候補者となることはできない。

第2条 本賞の贈呈は、毎年3件以内とする。

第3条 本賞は、賞状および賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者（グループにおいてはその中心になる者）は、年会において技術功績賞受賞講演を行うほ

か、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第6条 会員は、候補者を所属支部の支部長または団体会員代表者に推薦することができる。

第7条 支部長または団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者は、候補者を会長に推薦する。

第8条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦（1行45字×40行）に使用し、本文及び業績リスト（主要なもの）はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

[注記]

- 1) 推薦書の団体会員代表者は、本会に登録されている代表者名を記入してください（代表者を変更される場合は、あらかじめ変更届を提出してください）。
- 2) 所定の推薦書類を入用の場合は、返信用封筒（切手140円添付）を同封のうえ、下記技術功績賞係あてにお申し出ください。なお、電子ファイルをご希望の場合は shomu@jsac.or.jp へご連絡ください。
- 3) 推薦書類提出期限：2027年1月末日（郵送の場合は、当日消印のあるものまで受理します）。なお、推薦理由書が規程〔上記第8条b〕の書式、枚数〕に従っていない場合は受理しません。
- 4) 推薦書類提出先：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 公益社団法人日本分析化学会技術功績賞係〔電話：03-3490-3351〕

2027年度先端分析技術賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2027年度先端分析技術賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

標記候補者の推薦を希望される方は下記の規程を参照のうえ、10月末日までに日本分析化学会のいずれかの支部の支部長、研究懇談会の委員長、または（一社）日本分析機器工業会専務理事（JAIMA 機器開発賞）あてにお申し出ください。

『先端分析技術賞規程』

第1条 本会に先端分析技術賞（以下、本賞という）を設け、先端的分析技術開発（機器開発、分析・評価技術開発、分析用新規物質の開発、など）や実用化において、優秀なる業績と展開性を示した個人あるいはグループにこれを贈呈する。

第2条 本賞は、（一社）日本分析機器工業会（以下JAIMAという）のスポンサーシップによるJAIMA 機器開発賞によって構成される。

第3条 本賞は、毎年2件以内とする。

第4条 本賞は、賞状、賞牌及び副賞とする。

第5条 本賞を受けた者は、受賞記念講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第6条 本会会長は、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載するとともにJAIMA 機関誌夏号に掲載を依頼する。

第7条 本賞への応募者は自薦・他薦を問わず、本会支部長、本会研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事あてに必要な書類を定められた期日までに提出する。

第8条 支部長、研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事は、候補者を会長に推薦する。

第9条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦（1行45字×40行）に使用し、本文及び業績リスト（主要なもの）はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

☆

☆

お知らせ

【照会先】支部の推薦委員会ならびに研究懇談会宛先は下記のとおりです。

- 北海道支部 : 〒090-8507 北海道北見市公園町 165 北見工業大学工学部内
jsac-hb@w9.dion.ne.jp
- 東北支部 : 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-11-604 東北大学大学院工学研究科内
kaoru.hiramoto.b4@tohoku.ac.jp
- 関東支部 : 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (公社)日本分析化学会内
jsac-kanto@jsac.or.jp
- 中部支部 : 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 1-35-18 中部科学技術センター内
bunseki@cstc.or.jp
- 近畿支部 : 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター内
mail@bunkin.org
- 中国四国支部 : 〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2-1 徳島大学理工学部応用化学システムコース内
mizu@tokushima-u.ac.jp
- 九州支部 : 〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈 8-19-1 福岡大学薬学部
jsac_kyushu@jsac.jp

研究懇談会

- 液体クロマトグラフィー : nakamura@jsac.or.jp
- ガスクロマトグラフィー : gckondankai@gmail.com
- 高分子分析 : infopacd@pacd.jp
- X 線分析 : shigeo.sato.ar@vc.ibaraki.ac.jp
- 化学センサー : hisamoto@omu.ac.jp
- 有機微量分析 : orgmicro@jsac.jp
- 分析試薬 : iki@tohoku.ac.jp
- 電気泳動分析 : kitagawa.shinya@nitech.ac.jp
- イオンクロマトグラフィー : ic@jsac.jp
- フローインジェクション分析 : jafia@jsac.jp
- 環境分析 : kumata@ls.toyaku.ac.jp
- 表示・起源分析技術 : hyoji.kigen@gmail.com
- 熱分析 : y24moto@kanagawa-u.ac.jp
- 化学分析技能 : michihisa.uemoto@meisei-u.ac.jp
- 溶液反応化学 : yumescc@chem.sc.niigata-u.ac.jp
- 電気分析化学 : maedak@kit.ac.jp
- ナノ・マイクロ化学分析 : ahihaba@chem.sci.isct.ac.jp
- バイオ分析 : info_bioanalysis@yoshimotolab.c.u-tokyo.ac.jp
- スクリーニング分析 : scr-info@jsac.jp

(一社)日本分析機器工業会専務理事宛先

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5-16 名古路ビル新館 6 階

名誉会員候補者推薦について

日本分析化学会は、名誉会員推薦基準③項及び名誉会員推薦手続内規3項により、名誉会員候補者の推薦を受け付けております。日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規定を参照のうえ、2026年10月末日までに所属支部長にお申し出ください。また、支部長は2026年12月末日までに会長（本部）まで推薦してください。

『名誉会員推薦基準』

- ① 前・元会長で65歳以上（4月1日現在）の者
- ② 分析化学に関する業績により、国内又は国際的な最高の栄誉（ノーベル賞・文化勲章・学士院賞など）を授けられ、かつ本会への功績のあった者
- ③ ①、②に準ずる学問的業績及び本会への功績があり、70歳以上（4月1日現在）の者

『名誉会員推薦手続内規』

（推薦基準①の場合）

1. 会長経験者が65歳（4月1日現在）に達する場合、会長は毎年度第1回理事会（3月）において名誉会員に推薦する。但し、現職会長の場合は、次期会長がこれを推薦する。

（推薦基準②の場合）

2. 会員が、ノーベル賞、文化勲章、学士院賞を受賞したとき及び文化功労者に選定されたときは、会長は随時名誉会員推薦委員会を開催し、名誉会員に推薦することができる。
3. 名誉会員推薦基準③の場合は、次の手順による。
 - 1) 名誉会員は、2013年から2年ごとに推薦する。
 - 2) 会長は、名誉会員推戴時前年7月に、機関誌「ぶんせき」に推薦依頼の会告を行う。
 - 3) 正会員は、所属各支部長に名誉会員推薦基準に基づき名誉会員候補者を推薦する。なお、推薦する名誉会員候補者は、当該支部所属の正会員に限定せず、全国的視野において推薦するものとする。
 - 4) 支部長は、推薦された名誉会員候補者について支部内で十分検討した後、12月末日までに会長に推薦する。
 - 5) 会長は、理事会内に名誉会員推薦委員会を設け、各支部長から推薦された名誉会員候補者を名誉会員推薦基準に合わせて審議し、通常総会に諮る名誉会員候補者を選定する。
 - 6) 名誉会員推薦委員会は、会長、次期会長、副会長5名、の計7名で構成し、会長が議長を務める。
なお、名誉会員推薦委員会構成者は、各支部長に名誉会員候補者を推薦することはできない。
 - 7) 外国人推薦の場合も、原則としてこれに準ずる。

<以下省略>

〔注記〕

- a. 所定の名誉会員候補者推薦書を入用の場合、下記支部宛または本部総務課宛お申し出ください。
- b. 支部への推薦書提出期限：2026年10月末日

☆ ☆

【推薦書類提出先】

北海道支部：〒090-8507 北海道北見市公園町165 北見工業大学工学部内
東北支部：〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11-604 東北大学大学院工学研究科内
関東支部：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 (公社)日本分析化学会内
中部支部：〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須1-35-18 中部科学技術センター内
近畿支部：〒550-0004 大阪府大阪市西区鞆本町1-8-4 大阪科学技術センター内
中国四国支部：〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学理工学部応用化学システムコース内
九州支部：〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1 福岡大学薬学部

【問合先】

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号
公益社団法人日本分析化学会総務課 e-mail: shomu@jsac.or.jp, shomu2@jsac.or.jp

2026 年度第 2 回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

期日 2026 年 7 月 24 日 (金) 15.00~17.00

会場 大阪科学技術センター 7 階 700 号室〔大阪市西区靱本町 1-8-4、電話：06-6443-5324、交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約 7 分。うつば公園北詰〕

講演

1. 行政の分析・司法の分析～食品から麻薬へ
(15.00~16.00) (近畿厚生局) 津村ゆかり
2. 刺激を検出して多彩に発光を変化させる
金属錯体の設計指針 (16.00~17.00) (大阪大学) 吉田将己

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し、(1) 氏名、(2) 勤務先 (所属)、(3) 連絡先を記入のうえ、下記申込先へ FAX または E-mail にてお申し込みください。なお、参加証は発行いたしませんので、当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail：mail@bunkin.org〕

※詳細は、近畿支部ホームページ (<http://www.bunkin.org/>) にてご確認ください。

入門触媒科学セミナー

主催 (一社)近畿化学協会触媒・表面部会

協賛 (公社)日本分析化学会近畿支部ほか

期日 2026 年 10 月 7 日 (水)・8 日 (木)

会場 大阪科学技術センター 4 階 404 号室

プログラム

第 1 日 (7 日) 10 時~17 時

1. 開会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人
2. 触媒科学の基本概念—これだけは知っておこう— (京大院人環) 吉田寿雄
3. 固体表面の酸・塩基点とその触媒機能 (京大エネ研) 田村正純
4. 金属酸化物触媒—多様な触媒機能の宝庫— (京都工繊大材料化学系) 細川三郎

交流懇親会 (無料)

第 2 日 (8 日) 10 時~17 時

5. 遷移金属錯体触媒—錯体の基礎と有機合成触媒反応— (阪公大院理) 亀尾 肇
6. 金属ナノ粒子触媒—構造と触媒作用及び設計法— (阪大院基礎工) 満留敬人
7. 触媒調製化学—基礎から最近のナノ構造触媒まで— (阪大院工) 桑原泰隆
8. 閉会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人

参加費・申込方法 詳細は

<https://kinka.or.jp/catalytic/> をご参照ください。

申込締切 9 月 11 日 (金)

申込・問合先 〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 近畿化学協会触媒・表面部会〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail：catal@kinka.or.jp〕

2026 年度関東支部

「新世紀賞」・「新世紀新人賞」候補者募集

関東支部では 2000 年より新世紀賞および新世紀新人賞を設け、表彰を行っています。2026 年度も下記のとおり募集しますので、適当な候補者がおられましたら、ご推薦の程お願いいたします。

2023 年 1 月 13 日から新しい支部表彰規定が施行されました。詳しくは関東支部 HP (<https://kanto.jsac.jp>) をご覧ください。

新世紀賞資格

- ① 2026 年 4 月 1 日現在で満 39 歳以上 54 歳以下の者で関東支部所属の正会員。ただし、上限年齢を超えても受け付ける場合*がある。
- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌に公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする (自薦を含む)。
*上限年齢は、研究職からの異動、産休・育休、また長期療養などのライフステージを考慮する。

新世紀新人賞資格

- ① 2026 年 4 月 1 日現在で満 38 歳以下の関東支部所属の正会員。ただし、上限年齢を超えても受け付ける場合*がある。
- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌に公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする (自薦を含む)。
- ⑤ ただし、日本分析化学会奨励賞受賞者は除く。
*上限年齢は、研究職からの異動、産休・育休、また長期療養などのライフステージを考慮する。

提出書類

新世紀賞

- ① 推薦書 (関東支部 HP (<https://kanto.jsac.jp/award/>) よりダウンロードしてください)
- ② 推薦理由書 (A4 判を縦 (1 行 45 字×40 行) に使用し、本文および文献リスト (主要論文等) を合わせて 3 ページ以内で作成すること)。
- ③ 添付資料 (特に重要な論文の別刷、その他審査の参考となる資料)

新世紀新人賞

- ① 推薦書 (関東支部 HP (同上) よりダウンロードしてください)
- ② 推薦理由書 (A4 判を縦 (1 行 45 字×40 行) に使用し、本文および文献リスト (主要論文等) を合わせて 3 ページ以内で作成すること)
- ③ 添付資料 (特に重要な論文・特許等の写し、3 編以内)

提出方法 上記書類を電子ファイルとし、推薦者より書類提出先記載の E-mail アドレス宛送信 (cc：候補者) のこと (ただし自薦の場合は候補者より送信、いずれも押印不要)。

①、②についてはそれぞれ 1 件のファイルとすること。③については複数のファイル送付も可とするが、必要最小限とすること (いずれも PDF ファイルを推奨)。なお、事務局にてメールおよびファイルを受信後、受領通知が送信されるので、確認のうえ、受領通知のメールは保管のこと。送信後 1 週間以内に受理通知が届かない場合は書類提出先アドレスに必ず問い合わせのこと。

締切日 2026 年 10 月 31 日 (土) 必着

書類提出先 日本分析化学会関東支部事務局 [E-mail：kanto@jsac.or.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

熱測定講習会 2026

主催 日本熱測定学会
期日 2026年6月19日(金), 7月3日(金), 7月24日(金), 8月25日(火)
会場 8月25日(火) 実習会場: 東京理科大学神楽坂キャンパス6号館4階理科実験室(他はオンライン開催)
ホームページ <https://www.netsu.org/>
連絡先 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-15-9 須磨マンション901 日本熱測定学会 事務局 土信田裕子〔電話: 03-6310-6831, E-mail: netsu@mbd.nifty.com〕

第15回環境放射能除染研究発表会 —環境再生の未来ビジョン 福島から全国への新展開—

主催: (一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会
協同主催: (国研)産業技術総合研究所 ネイチャーポジティブ技術実装研究センター
期日 2026年8月26日(水)・27日(木)
会場 (国研)産業技術総合研究所中央事業所共用講堂
ホームページ <https://khjosen.smoosy.atlas.jp/ja/>
連絡先 〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前24-10 トウインクル吉田A棟102号室 (一社)環境放射能除染学会事務局 丸山能生〔電話: 029-886-9227, E-mail: 15conf@khjosen.org〕

シンポジウム 「モレキュラー・キラリティー 2026」

主催 Molecular Chirality Research Organization (MCRO)
期日 2026年8月31日(月)・9月1日(火)
会場 東京理科大学神楽坂キャンパス
ホームページ <https://www.rs.tus.ac.jp/mc2026/>
連絡先 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町12 五号館五階0511 東京理科大学理学部応用化学科 川崎研究室 教授 川崎常臣〔電話: 03-5228-8261, E-mail: tkawa@rs.tus.ac.jp〕

2026年日本表面真空学会学術講演会 (JVSS2026)

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 2026年9月15日(火)~17日(木)
会場 ビッグパレット福島
ホームページ <https://pub.conf.itatlas.jp/en/event/jvss2026>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階 (公社)日本表面真空学会事務局〔電話: 03-3812-0266, E-mail: taikai2026@jvss.jp〕

第47回超音波エレクトロニクスの 基礎と応用に関するシンポジウム

The 47th Symposium on UltraSonic Electronics

主催 超音波エレクトロニクス協会 USE シンポジウム運営委員会
期日 2026年11月11日(水)~13日(金)
会場 福岡県北九州市・北九州国際会議場
ホームページ <https://www.use-jp.org/USE2026/index.html>
連絡先 総務担当・大隅 歩 (日本大学)
〔E-mail: use-sponsor-app@iuse.or.jp〕

第53回炭素材料学会年会

主催 炭素材料学会
期日 2026年12月1日(火)~3日(木)
会場 コラッセふくしま
ホームページ <https://www.tanso.org/contents/event/conf2026/>
連絡先 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 炭素材料学会年会ヘルプデスク 青木友理恵
〔E-mail: tanso-desk@conf.bunken.co.jp〕

「分析化学」年間特集「薬」論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画してきました。2027年は「薬」をテーマとして募集を行います。

基礎・応用を含めた医薬品分析に関する“最新の知見”はもちろん、医薬品分析に関する“研究の背景”をまとめた総合論文や総説を広く募集します。

さらに、薬のみならず、薬により引き起こされる生命現象(例えば、薬の投与による生体内物質の変動など)を対象とした分析研究についても論文を募集します。薬と分析の関わりを幅広い視点から捉え、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的とします。

本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第76巻(2027年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「薬」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文申込締切: 2026年7月17日(金) (第1期)

特集論文原稿締切: 2026年8月21日(金) (第1期)

「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第86回分析化学討論会では、「生体膜と分析化学」、「医療・健康に貢献する薬系分析の役割と展望」、「分析化学を通じた溶液化学と熱測定の融合」、「バイオ×分析化学: 現象の可視化と社会実装の架け橋」、「食品のおいしさと分析化学: おいしさの可視化を目指して」、「オンサイト分析で探る環境科

学」の6テーマを討論主題として取り上げました。

2026年度の分析化学討論会特集号では、「課題解決型イノベーションを支える分析化学」をテーマにしました。本テーマにおいて、第86回分析化学討論会で設けた6つの討論主題に関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文の申込締切：2026年7月10日（金）

特集論文の原稿締切：2026年8月7日（金）

「分析化学誌」特集 “イオンクロマトグラフィーの技術進展と 新規開発”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、イオンクロマトグラフィー研究懇談会（IC懇）と共同で「イオンクロマトグラフィーの技術進展と新規開発」と題した特集を企画しました。

本特集号では、方法論の新規開発、試料の前処理・後処理技術、性能向上技術など、ICに関わるイオン分離定量法だけでなく、ICの幅広く様々な分野への応用や適用例に関する論文も募集しております。幅広い分野からの論文投稿をお待ちしています。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年8月28日（金）

特集論文原稿締切：2026年10月16日（金）

「分析化学」編集委員会特集 “産学官連携で広がる分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2027年度（第76巻）の「編集委員会特集」のテーマは、『産学官連携で広がる分析化学』に決定いたしました。高度に複雑化・多様化している社会課題の解決に向けて、専門分野や組織の異なる研究者同士が協働して研究を推進することの重要性がより一層高まっています。

上記状況に鑑み、産学官、産学、学官、および産官での連携研究や、今後共同研究に発展させたい研究成果に関する論文を募集いたします。社会実装に至った研究開発事例、実用化を見据えた分析技術や分析装置・デバイスに関する研究成果、今後産学官での連携に発展させたい研究シーズに関する内容など、産学官連携研究の輪を広げる多数の論文の投稿をお待ちしております。詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年10月3日（土）

特集論文原稿締切：2026年12月5日（土）

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第25回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail: bunseki@jsac.or.jp]